

2010年上海万博 日本国家館「紫蚕島」にぜひ、いらしてください。(1)  
上海国際博覧会 陳列区域日本政府代表 塚本弘氏



来年5月からの上海万博で、日本館の展示にぜひ中国の多くの方々にいらしていただきたいし、上海万博には、日本からもたくさんの方々が来られると思います。1970年の大阪万博が6400万人で、これが今まで万博史上最大ですけれども、2010年の上海万博は、中国の方々は7000万人と期待しておられますので、万博史上最大となります。

その中で日本としてもぜひ立派な展示をして、お客さんにたくさん来ていただきたいと思っています。そのためにはいろいろの魅力ある工夫を考えています。まず、日本館の建物ですね。非常にユニークな建物で太陽のエネルギーをこの建物の屋根や壁から取り入れることができます。それから突起とへっこんだところがありますが、こういう所で水を取り入れる。こういう形で建物自身が相当エコに配慮した建物になっております。われわれは生命体のように呼吸する建物と言っています。上海万博で注意したいのは暑さ対策です。多分5月から10月なので相当暑いと思うんですね。エアコンをちゃんとすることと、多分待つていただく方がある程度行列されることになってくると思うので、待つていただいている方にミストという形で、霧みたいなものを出して少し暑さをしのぐということを考えています。建物の色がちょっと紫色がかっております。この前の北京オリンピックの時に「鳥の巣」というのが話題になっていましたね。今度の上海万博でも日本館について名前を考えていただこうと、中国で募集をいたしました。中国語でこの建物の名前はどんな名前がいいですかと募集しましたら3500くらい応募がありました。それで、最終的

に紫の蚕の島という、ズーツァンダオ（紫蚕島）というんですか、日本語の名前はむらさきはいれると長くなってしまうので、シンプルに「かいこじま」という名前にしました。この名前を提案されたのは中国の女性の方ですけれども、その方には賞品をさしあげまして、それから他の方々にも、いい名前を出していただいた方々は賞品をさしあげました。エレクトロニクスの商品とか、日本館のスポンサー企業から出していただきました賞品なんです。もうひとつは、日本館のシンボルマークというのがありますね。これが中国語では微笑相聯という名前にして、笑顔が出てくるような形で。そういうことで親しみをもっていたらこうということにしました。



この笑顔も何人も人がつながっている、そういう感じのデザインです。日本館全体のテーマが「心の和・わざの和」というテーマなんです。そのサブテーマが「つながろう！調和のとれた未来のために」です。今回の万博全体のテーマは「より良い都市、より良い生活」「Better City、 Better Life」というテーマなんですけど、それに沿った形で、日本の場合には「Better City、 Better Life」ということを考えていったときに根幹的に大事なことはこころの和、わざの和ということ、調和の取れた未来ということで、そういうことを、今回の出展ではみなさんにアピールしていきたいと考えています。今回の上海万博の日本館は、海外の万博に今まで日本が出した施設としては最大規模なんです。参加国の中では最大の規模、もちろん中国は別ですよ。中国国家館というのは全体で6万㎡くらいです。われわれの方は6,450㎡です。

展示がゾーンの1、2、3とあります。ゾーン1では過去の日本と中国とが、非常に長い間、歴史的なつながりがあったということを見てください。遣唐使などを中心にですね、日本と中国がいかに色々な意味でつながってきたのかを確認していただこうと思っています。ずっとエスカレーターではいっていただいて、漢字の伝播とか、鑑真さん、こう

いろいろな日本と中国のつながりを見てもらいます。これがゾーン1ですね。



それからゾーン2というのはどちらかというと現在の問題をとりあげております。これまでの長いつながりの中で日本は、中国の文化をベースにしながら独自の文化をどんどん花開かせていったということを見てください。お茶なんかは、まさに中国から最初に伝わってきたのですが、それを日本の中で独自に、日本の自然の中で育ててきたというふうなことを見ていただきます。特に自然と日本のいろいろな文化との関係とか、命へのいつくしみとかですね、そんなことを見ていただきながら、日本の都市生活者がどういう問題に今、直面しているのかを取り上げます。主に3つの問題、水の問題と地球温暖化の問題と高齢化問題について現在どういう課題をわれわれがかかえているのかをみなさんに理解していただこうかと考えています。



ゾーン 3 の未来というのはそういう問題を解決するためにはどんなことが求められるかということを示していきます。まず、プレショーというコーナーでは、ロボットとか、未来の情報家電を活用した住宅をみなさんに見ていただきます。最後はショーをみてもらいます。このショーのメインは、日中が手を携えて朱鷺を救うストーリーになる予定です。朱鷺は日本に古くから生息していた稀少鳥類であるが、近年絶滅の危機に瀕していました。しかし、最近、中国から日本に朱鷺が提供され、日本の繁殖がサポートされてきました。このような朱鷺の救出を通じて、人類が団結して未来に立ち向かうことの重要性を訴えたいと思っています。ひとりひとりが未来に向けて自分の生き方をどうしたらいいか、そんなことも含めて、楽しく日本と中国の演出家（日本の演劇界の第一人者佐藤信氏、上海出身の演出家 ダニー・ユン（栄念曾）氏）にコラボレーションをやっていただこうと考えています。

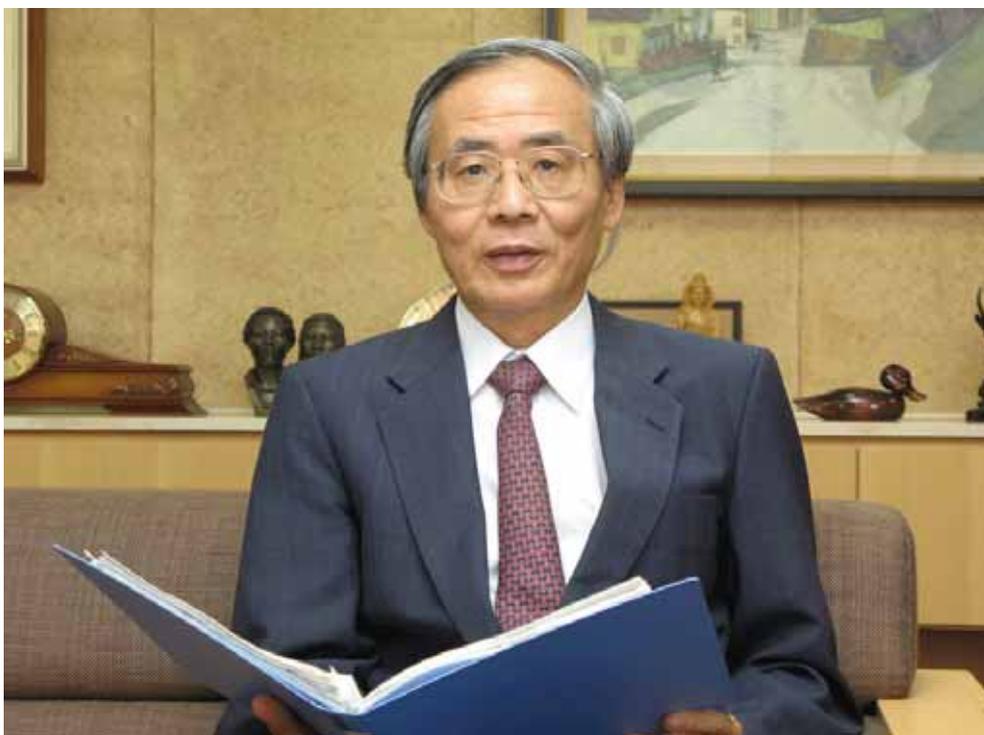
このように楽しく見ていただいて、全部ですっと見ると 1 時間くらいかかります。今、お話したゾーン 1 からゾーン 3 までの展示の概要は、日本はコンピューター・グラフィックも作って、もう万博のサイトにアクセスしていただくとみんな見られます（<http://jp.expo2010.cn/czsw/rbcz/rbgig/index.htm>）。他のところでここまでつくっていただけるのはあまりないのではないかと思います。



これが全部、紫蚕島の中にあります。だいたい展示の中身については今、申し上げられるのはそのくらいです。こういうのは驚きですからね。あんまり先入観なしで見に行っていたらと思います。万博というものは、いつも未来に向けて観客にどういうメッセージを出していくか、また、どんな驚きがあるのかが求められます。例えば、今回もロボットに何をやらせれば皆様の話題になるか、真剣に今、考えているところです。

(続く)

## 塚本弘氏略歴



- 1968年 3月 京都大学法学部卒業
- 1968年 4月 通商産業省入省
- 1979年 5月 外務省 在インドネシア日本国大使館 一等書記官
- 1986年 7月 アジア経済研究所 海外調査員（ロンドン）
- 1991年 2月 大臣官房 企画室長
- 1992年 6月 日本貿易振興会 ニューヨーク・センター所長
- 1994年 7月 大臣官房審議官（地球環境問題担当）兼 通商産業研究所次長
- 1995年 7月 国民金融公庫 理事
- 1997年 7月 社団法人電子情報技術産業協会 専務理事
- 2002年 6月 日本貿易振興機構（ジェトロ） 副理事長 就任
- 2007年 10月 財団法人貿易研修センター理事長 兼 日欧産業協力センター事務局長
- 2008年 9月 経済産業省 顧問 上海国際博覧会 陳列区域日本政府代表